

文芸同人誌データベース化を目指した利活用ニーズ調査 ～文学フリマを事例として～

Analysis on user needs of Literary Dojinshi Database: Online survey results

小野永貴¹, 常川真央², 岡野裕行³, 谷村順一¹

Haruki ONO,^{1*} Mao TSUNEKAWA,² Hiroyuki OKANO,³ Junichi TANIMURA¹

1. 日本大学芸術学部, 2. 国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター, 3. 皇學館大学文学部

文芸同人誌は、将来的な文学研究に資する重要な資料になり得るにも関わらず、体系的なアーカイブ化がなされていない。そこで筆者らは、文芸同人コミュニティの代表例である「文学フリマ」の作品を対象としたデータベースの研究開発に取り組んでいる。今回、開発に向けた事前調査として、データベース化のニーズに関するアンケートを実施し、集計結果の分析を行った。

1. 手法

本調査は、文学フリマに出店または来場された方を対象とし、オンラインフォーム（Google Form）を使用したウェブアンケートとして実施した。調査期間は、2019年5月4日（土）から7月21日（日）とした。この期間は、3回の文学フリマ開催日（第28回文学フリマ東京、第4回文学フリマ岩手、第4回文学フリマ札幌）を含むため、直近の出店経験や来場体験をふまえた回答内容が得られると期待し、期間を設定した。質問項目は年齢、性別といった

一般的な属性項目のほか、文学フリマへの関わり方、関心ジャンルといった、文学フリマ固有の属性に関する項目も含めた。そのうえで、日常のなかで文芸同人誌を探す機会の有無および探し方、データベースへ期待する検索項目等のニーズを質問した。

さらに、質問内容のうち、定量的項目について、単純な度数集計による回答の傾向を分析し、属性情報とのクロス集計を行い、項目間の関連性を分析した。

2. 結果

調査期間を通して、122件の回答を得た。回答者のうち、全体の65.0%は文芸同人誌を頒布する「出展者」であった（表1）。また、日常の中で文芸同人誌を探す機会が「ある」と答えた回答者が、62.3%を占めた。文芸同人誌の探し方については、「会場でブースを見て回る」が最多であり、それに次いで「TwitterやFacebook等のSNSで探す」が多かった。また、同人誌データベースがあれば使いたいかという質問に対し、「使うと思う」と答えた回答者が71.3%を占めた（表2）。検索項目へのニーズは、「出展者（サークル名）」および「書名」が高い割合を占めたが、それと同程度に「著者名」「作品名」のニーズも高かった。

表1. 質問項目「文学フリマへはどのように関わっていますか」に対する回答

	度数	割合
出展者	104	65.0%
来場者	47	29.4%
運営スタッフ	6	3.8%
その他・無回答	3	1.9%
合計	160	100.0%

表2. 質問項目「同人誌データベースがあれば使いたいと思うか」に対する回答

	度数	割合
使うと思う	87	71.3%
使わないと思う	6	4.9%
わからない	26	21.3%
その他・無回答	3	2.5%
合計	122	100.0%

3. 結果の分析および考察

文学フリマの場合、カタログにはサークル名しか記載されていない場合が多く、サークルが販売した作品の情報は記載されていない場合が多い。よって、検索項目へのニーズを満たすには、見本誌現物から新たに目録をとる必要性が示された。

次に、クロス集計の結果としては、関わり方や関心ジャンルについて、関連性は見られなかった。一方で、性別を軸にクロス集計を行った結果、明らかな差が出現した（表3）。日常の中で文芸同人誌を探す機会については、「女性」の回答者のうち72.7%が「ある」と答えたのに対し、「男性」の回答者のうち「ある」と答えたのは46.7%のみに留まった。また、これらの回答者が用いる探し方についても、「女性」の方が「男性」よりも高い割合で「TwitterやFacebook等のSNSで探す」を選択しており、探し方にも差異がある可能性が示唆された。

表3. 「性別」と「文芸同人誌を探す機会」のクロス集計結果

		文芸同人誌を探す機会		合計
		ある	ない	
男性	度数	21	24	45
	割合	46.7%	53.3%	
女性	度数	48	18	66
	割合	72.7%	27.3%	
その他	度数	2	1	3
	割合	66.7%	33.3%	
回答しない	度数	1	2	3
	割合	33.3%	66.7%	
無回答	度数	4	1	5
	割合	80.0%	20.0%	
合計	度数	76	46	122

4. 結論

調査結果から、文芸同人誌データベースへの期待が高いこと、検索項目設計時に文芸同人誌特有の事情を反映する必要性があることが分かった。一方で、「男性」と「女性」の回答者の間で文芸同人誌を探す機会やデータベースへのニーズに有意な差があった。潜在的な変数があることも考慮しつつ、今後は自由記述項目の分析および質的調査を並行して実施したい。